

第17回自動車安全技術プロジェクトチーム会議 開催結果

1 開催概要

- (1) 日時 令和4年3月25日(金) 午後1時30分～午後3時30分
- (2) 場所 愛知県議会議事堂 1階 ラウンジ
- (3) 出席者 以下のとおり

【企業】

- 林 健 (株)アイシン 走行安全第1制御技術部 主査
- 坂 要一郎 (株)デンソー モビリティエレクトロニクス経営企画部 上級キャリアエキスパート
- 金子 由美 (株)デンソー クラウドサービス部 DI室ビジネス開発課 課長
- 本多 輝彦 トヨタ自動車(株) コネクティッド統括部 ITS推進室 担当部長
- 石井 重治 三菱自動車工業(株) 第二車両技術開発本部車両制御開発部 担当部長

【大学】

- 小栗 宏次 愛知県立大学情報科学部 教授

【行政】

- 国土交通省中部運輸局
- 豊田市
- 愛知県知事 大村 秀章(挨拶後に退席)
- 愛知県経済産業局、防災安全局、都市・交通局、建設局
- 愛知県警察本部

2 議事概要

- 大村知事挨拶の後、事務局及びメンバーから、今年度のプロジェクトチームの取組成果及び関連の取組について報告を行った。
- その後、意見交換を行った。主な発言は以下のとおり。

【主な発言】

(株式会社アイシン 林 氏)

交通安全活動を引き続き進めていく。当社は、特に運転支援に関する部品に携わっており、その機能向上、更なる普及に向けて継続して活動していく。

(株式会社デンソー 坂 氏)

引き続き、交通死亡事故ゼロを目指してセンサー開発やデータ分析等を行っていく。自動車産業の一員として、従業員の交通事故ゼロを目指している。軽微な事故も無くするためには、ドライバの意識向上が必要。本日報告した yuriCargo プロジェクトなどの推進により、地域貢献とともに従業員の安全運転意識の向上に努めている。

また、海外、特に新興国では、急ブレーキの発生が多い特徴がある。道路環境に課題があることが多く、国内同様、データを集めて、その改善に貢献していきたいと考

えている。

(トヨタ自動車株式会社 本多氏)

自動車の周辺技術、デバイスや情報通信、スマートフォン、ロボットを活用した事故の削減や、あるいはドライバの行動変容にもそれらが活用できるということに感心した。自動車の製造だけでなく、広く最新の技術を取り入れ、安全な自動車社会の実現に貢献していく。

(三菱自動車工業株式会社 石井氏)

地域に根差した会社ということで、朝の立哨活動を始め、交通安全活動などに取り組んでいる。地域からは運転マナーについて指摘を受けることもある。本日の取り組みは参考になった。一方で、自動車会社として予防安全装置を広く普及させる義務がある。交通事故の更なる低減に貢献していきたい。

(愛知県立大学 小栗氏)

本県が交通死亡事故者数全国ワースト1を返上できたことは非常に感慨深い。ワースト1を返上したときは学生たちも大感激だった。今後は、順位はさることながら、年間の死者数100人未満を目指し、関係の皆様の尽力を引き続きお願いしたい。

交通安全に関する取り組みは、新しいフェーズに入るのではないかと考えている。交通安全にかかる技術的な支援やその普及など、愛知県がこれらをリードしていける環境づくりを継続してほしい。

今後、交通安全に関する取組を進めるにあたっては、データを活用した「見える化」が重要となる。交差点の危険性や、従業員の安全運転度合い、県内市町村の安全性などを見える化することで、企業や各地域で交通安全運動を競い合い、その取り組みを高めたい。例えば、小中学校の周りでは父母が立哨活動をしているが、その成果が分かりにくい課題がある。成果が見える化できれば、もっと積極的に活動に参加できる。

今後は、自動車単体のテクノロジーもさることながら周辺技術を活用した交通安全に関する取組を推進することが重要である。

(国土交通省中部運輸局 加藤氏)

中部運輸局では、自動車関係団体が行うイベントにおいて、サポカーやASVの普及啓発を行っている。今年度は、(独)自動車事故対策機構(NASVA)の協力を得て、側面衝突試験を行った実際の車両展示を計画していたが、感染症の影響で開催できなかった。次年度も引き続き、啓発活動を続けていく。

(豊田市 中神氏)

交通安全にかかる啓発活動を積極的に行っている。子どもに対しては「とまってくれ

てありがとう運動」を実施している。しっかり運転手を見て、目が合えば、互いに認識していることが分かる。高齢者に対しては、ドライブレコーダを設置し、その映像を診断してフィードバックする取組を実施している。また、技術的な取組としては、トヨタ自動車(株)、県警の協力により「ジコゼロ大作戦」を2年間取り組んできた。複雑な交差点を対象としたスマートポールの設置や、プローブデータを活用したヒヤリハットデータベースの構築を行っている。また、信号のない横断歩道では、横断者の存在をLEDで自動車に知らせるシステムをプローブデータの活用により事故危険性が高い箇所を設置している。本市における死亡事故件数は、令和2年は16件であったが、令和3年は6件と減少しており、一定の成果は出ていると考えている。

(愛知県道路維持課 二ノ宮課長)

道路管理者として、交通安全対策を進めている。国で第5次社会資本整備重点計画における幹線道路を対象とした事故危険個所の登録があり、本県では、157か所を事故危険個所として挙げている。これらの事故危険個所にかかる整備方針を定めた愛知県交通安全施設等整備事業実施計画を策定し、今後、整備を進めていく予定。また、プローブデータ、ETC2.0のデータ及び国からの技術的支援を活用し、ゾーン30プラスなどにより面的で総合的な交通事故対策を講じていく。

(愛知県産業科学技術課 藤井課長)

自動車安全技術を含む研究開発支援を行っている。現在、2022年度の「新あいち創造研究開発補助金」の受付中で、自動車安全技術に係る研究開発について、ぜひ提案していただき、補助制度を活用いただきたい。

また、来年度から、第4期「知の拠点あいち重点研究プロジェクト」を実施する。3年間の産学行政連携による共同研究開発プロジェクトで、自動車関連の研究テーマも募集している。4月28日(木)まで研究テーマの公募を受付けている。

(愛知県産業振興課 渡邊課長)

当課は、当PTの事務局を担っている。本日発表いただいた自動車安全関連技術の研究開発、実装及び啓発普及に関する取組について、大変心強く感じている。来年度も2つのワーキンググループを含む活動をしっかり行っていく。引き続き、ご協力願いたい。

(愛知県防災安全局 青木県民安全監)

防災安全局では、歩行者対策としてのハンドアップ運動、自転車条例の制定など、様々な交通安全対策を行っている。自動車安全技術の進化は、今後の交通事故抑止の要となるのではと感じている。事故抑止に関する自動車安全技術の啓発活動についても、積極的に行っていく。

(愛知県都市・交通局 上田リニア・交通対策監)

本県は自動車依存度が高く、それに伴い、交通事故死者数が多い特徴がある。安全・円滑な道路交通環境の実現と交通事故の抑制が課題と考えている。当 PT の取組、愛知県 ITS 推進協議会による自動車安全技術の普及啓発を通じて、今後も一層の連携を図っていきたい。